# パラスポーツ セカンドハンドプロジェクト

NPO法人ParaNori

原　徳子

2025年5月版

# 自己紹介

■名前

原 徳子（Noriko Hara）

■略歴

・2022年～現在　独立

・2018～2022年　株式会社リクルート（中途採用領域・法人営業）

・2020年～　　NPO法人ParaNori設立

・2017～2018年　株式会社スタートライン（パラアスリート支援）

・2015～2017年　広島大学大学院 修士課程修了

・2011～2015年　茨城大学 教育学部 卒業　特別支援教育・体育教育を専攻

■WHYパラスポーツ

・漫画『リアル』に心を動かされたことがきっかけ

・障がい者スポーツの面白さ・奥深さを伝えたい

**・スポーツが人生を変える　生きがいや、外に出るきっかけになる**

・「自分には無理」と思う人に、“やってみよう”の一歩を届けたい

# WHY　カンボジア

・親友がJICAでカンボジアに駐在

・内戦や地雷被害により障がい者人口が多い

・スポーツは支援が薄く、環境整備が遅れている

・2023年SEA Games開催を機に、パラスポーツ熱が高まり中

**“始まりの国に、未来の仕組みを届けたい”**

ParaNori公式X

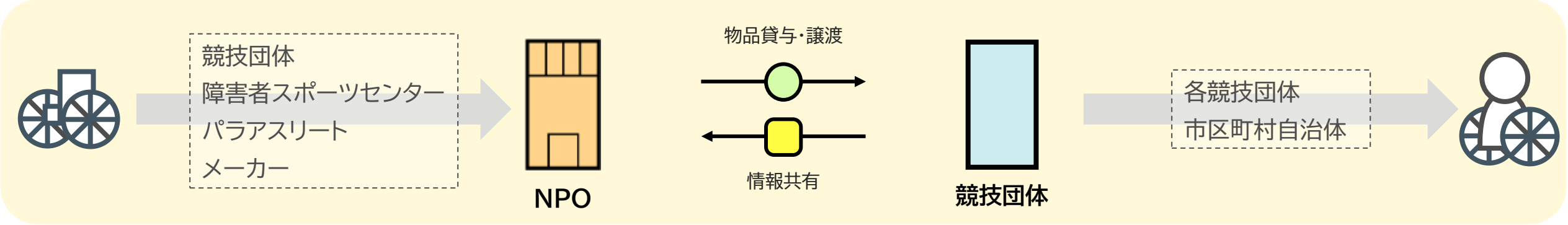
VISION

**スポーツを通じて、障害の有無に関わらず　人生を「イキイキ」と楽しめる世界を創る**

ParaNoriはスポーツ庁が推進する「U-SPORTS」加盟団体です
（加盟番号：US40016）

ParaNoriは独立行政法人日本スポーツ振興センターが推進する
スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムの正会員です（ID:0234）

# 日本サイド




**物品のとりまとめ**

回収

メンテナンス

保管

**協働運営**

情報の収集と発信

**物品の貸与と管理**

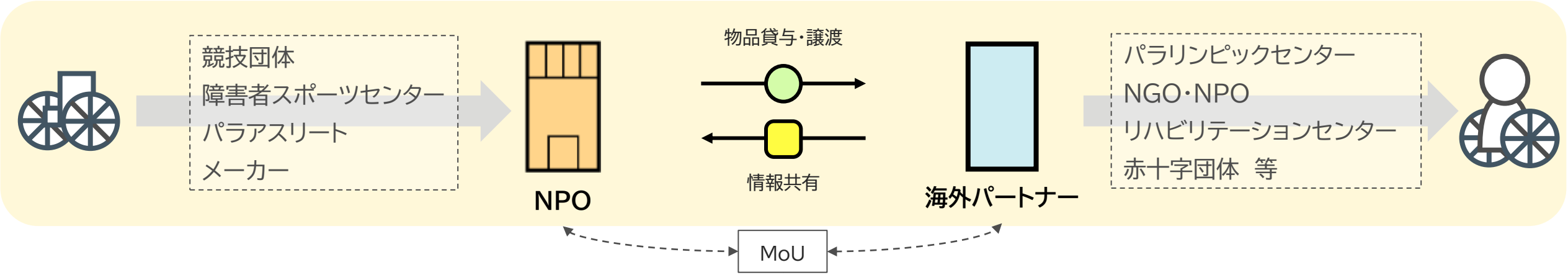
イベント開催

譲渡者選定

回収

活用状況報告

# カンボジアサイド




**物品のとりまとめ**

回収

メンテナンス

輸送

**協働運営**

普及イベント開催

定期メンテナンス

情報の収集と発信

**物品の貸与と管理**

物品保管

譲渡者選定

活用状況報告

# カンボジアにおける課題

・用具・拠点の不足／情報共有が未整備

・草の根レベルでの支援が届いていない

**パラアスリートの発掘が口コミ依存のため、アクセス機会の格差が顕著**
**面で支える「ネットワーク型の支援」へのニーズが高い**

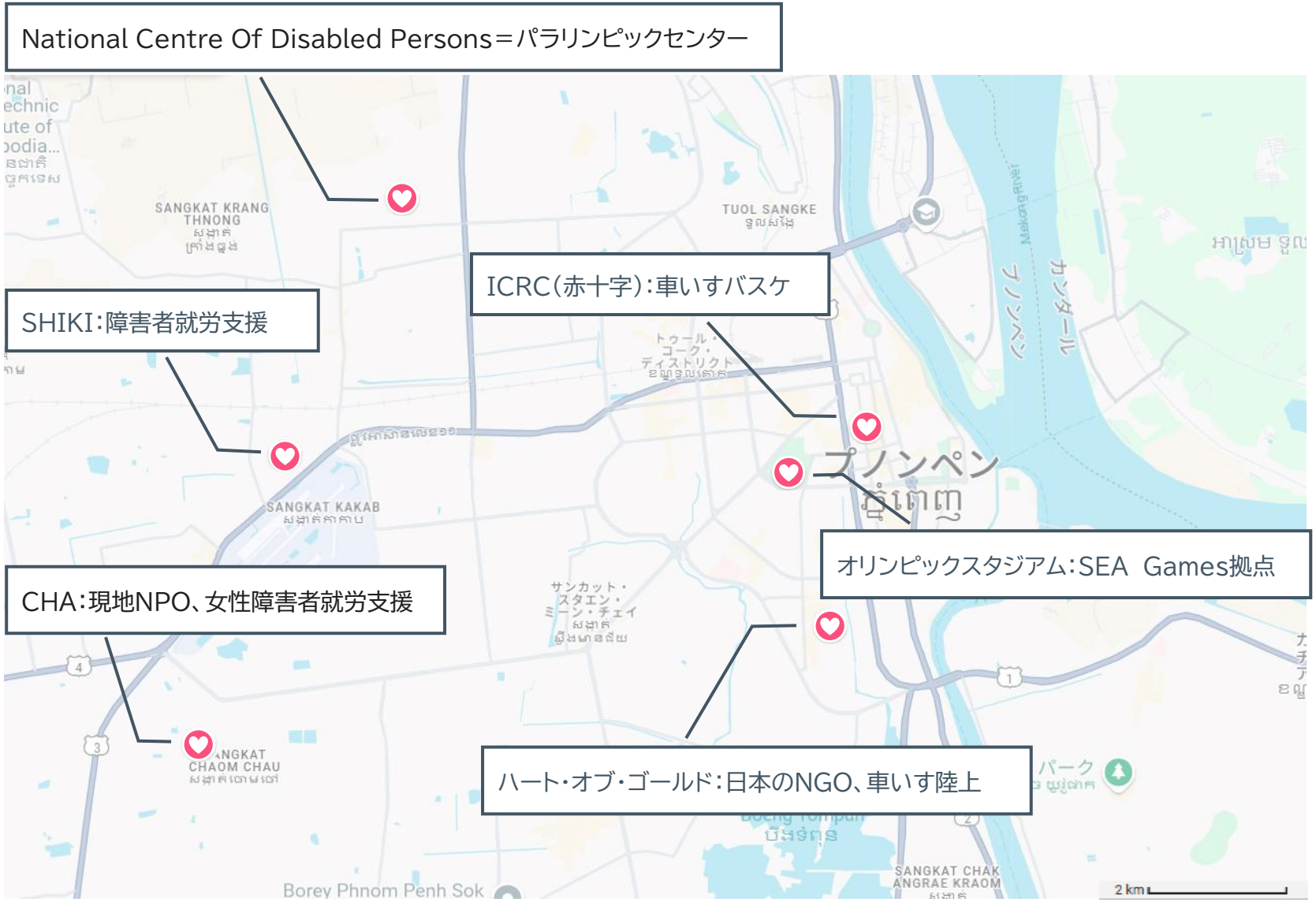
車いすバスケの拠点、首都まで300km
（プノンペンまで車で5時間ほど）

全土で人口約1700万人（日本の約13%）
国土面積は日本の約半分

首都人口約230万人（東京の約16%）

海上輸送の拠点、首都まで230km

# 関係団体との接点(2025年1月現地調査実施)




◆ 以下団体と連携見込み

- **パラリンピックセンター**
- **ICRC**(赤十字)
- **JICA**(協力隊派遣／草の根技術協力連携)
- **CHA**(NPO／女性障がい者就労支援)
- **ハート・オブ・ゴールド**(NGO／パラ陸上支援)
- **SHIKI**(食品加工／障がい者就労支援)
- **AAR**(NGO／インクルーシブ教育推進)
- **スロラニュプロジェクト**(NGO／障害児支援)

# Appendix

# 目標・Goal

## 📈 中期ビジョン（3年以内）

**【用具×体験×伴走支援の拠点整備】**

・体験会／ワークショップ：年間12回開催

→ハート・オブ・ゴールド（NGO）、JICA、日系NGOと連携

・用具貸出・譲渡体制の常設化（年間30台以上を循環）

→パラリンピックセンター、ICRC、リハビリテーションセンター、Lavella Schoolと連携

**【選手育成の成果】**

・クラブ所属選手：20名（3競技以上）

→うち、地域大会出場 7名以上／国際大会（ASEAN・アジア大会）出場3名以上

（※参考：2023年ASEANパラゲームにカンボジアは約250名の選手団を派遣しており、草の根を含めた推計で全国300名程度がパラスポーツにアクセスしていると見られる）

**【組織基盤の強化】**

・スタッフ・指導者・整備士：各1名以上を育成

→日本の競技団体、JICAと連携

・障がい者の就労・メンテナンス支援：3名以上の雇用創出

→SHIKI、JICAと連携

## 📈 長期ビジョン（5年以降）

・「誰もがスポーツにアクセスできる国」を実現

→用具提供・育成・雇用を一体化したモデルをカンボジア全土に展開

・近隣ASEAN諸国（ラオス・ミャンマー等）への展開も視野に入れる

# 初年度モデルケース（30台規模）

## STEP 1：用具の準備・輸送（届ける）

・国内で30台を回収・整備（陸上・バスケ・テニス、常用車いす・クラッチ・ボッチャ等、拠点は都内近郊倉庫を想定）
・整備パートナーと連携／海上輸送を1便テスト実施（使用可否の簡易チェックリストの整備）
　→現地受取：ParaNori現地法人 or 日系NGO団体、パラリンピックセンター 等プノンペンにて

## STEP 2：体験会＋譲渡の実施（使ってもらう）

・2～3拠点で体験会＋譲渡式を開催（ハート・オブ・ゴールド、JICAと連携、初年度は陸上、バスケ、テニスを中心に）
・各拠点で候補者を選定 → フィッティング（整備士帯同 or オンライン）→ 譲渡
・初期は各拠点で3名程度に譲渡し、定期フォローアップを実施（月1回のチェック、半年毎の現地訪問）
・SNS／メディアによる認知向上も同時展開

## STEP 3：人材育成・雇用の試行（育てる）

・SHIKI（就労支援）／CHA（職業訓練）と連携し、現地障がい者1名を整備補助スタッフとして試験雇用
・JICAの理学療法士派遣プログラム、日本からの技術者派遣を活用
・雇用は準委任形式（例：週2～3日×3ヶ月）

## STEP 4：連携基盤の構築（巻き込む）

・MoU準備：パラリンピック委員会、JICA、ICRC等（プロジェクトの信頼性担保）
・JICA・ICRCとの制度的連携、スポンサー提携10社
・Webサイト・活動レポート・PR素材を整備し、支援の「見える化」推進

## STEP 5：成果の見える化

・寄贈用具の「届け先」の写真・手紙・ビデオレターを収集
・年2回の活動レポート／支援者・企業向け報告会／Zoom交流会を開催
・「支援者と現地のつながりを育て、継続的な応援を生む文化へ

**🔑 初年度で達成したいこと（KPIイメージ）**

▸提供用具数：**30台**
▸イベント実施：2～3拠点／1～2日間ずつ
▸譲渡人数：9名程度（各拠点3名）
▸育成・雇用者：1名試験雇用（障がい当事者）
▸技術支援：日本から1名派遣 or オンライン対応
▸関係団体連携：MoU交渉／日本、現地スポンサー10社目標
▸支援者向け可視化：写真・手紙・Zoom報告会

# 国内での回収・輸送スキーム

提供者

■回収・輸送フロー

・ParaNoriが「着払い専用送り状」を郵送 or PDFで提供

・提供者がそれを使って発送 → 国内拠点で集約・整備

■受け入れ物品（事前指定）

・競技用／常用の車いす本体

・ホイール、クラッチ、ボッチャセット

・新品の片足シューズ

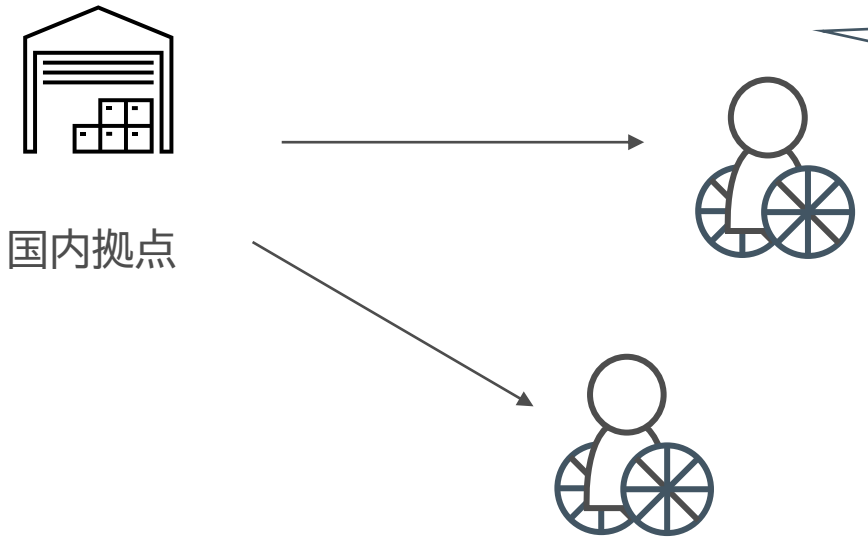
・新品に近いヘルメット・グローブ・消耗品類 など

国内拠点

※以下の項目は、現在ParaNoriが取り組んでいる現時点での検討・準備項目です。
皆様のご支援・ご協力をいただけますと幸いです。

| 項目 | 内容 | 優先度 | ステータス |
|---|---|---|---|
| 輸送業者との交渉 | 輸送費・協力スキームの交渉 | 中 | 交渉中 |
| 国内拠点の確保 | 廃校やクラブハウスの活用 | 高 | 情報収集中 |
| プロジェクトページの制作 | 情報発信・協賛・回収導線用ページ | 中 | 未着手 |
| チラシ・ポスターの作成 | スポーツセンター等への告知 | 低 | 未着手 |
| 在庫保有者の探索 | NF・企業・アスリートなど | 高 | 交渉中 |
| アンバサダー制度 | 顔出し協力（任意）・広報露出強化 | 中 | 交渉中 |

# 国内拠点での整備・マッチング体制




■ 拠点での主な役割

・用具・用品の整備・再組み上げ、安全点検

・マッチング対象者へのフィッティング・安全指導

・寄贈者への感謝・交流機会の創出

・不要になった用具・用品の再回収による循環維持

※以下の項目は、現在ParaNoriが取り組んでいる現時点での検討・準備項目です。
皆様のご支援・ご協力をいただけますと幸いです。

| 項目 | 内容 | 優先度 | ステータス |
|---|---|---|---|
| 部品劣化リスクの管理 | メーカーや整備業者と連携した安全確認体制の構築 | 高 | 未着手 |
| 整備・フィッティングの人材確保 | 理学療法士・車椅子整備士などのボランティア確保 | 高 | 未着手 |
| 譲渡対象者の選定基準づくり | NF（競技団体）との連携による公平な基準づくり | 中 | 未着手 |
| 保険・リスク管理体制の整備 | 万一の事故対応・既存事例の収集をもとに検討 | 中 | 情報収集中 |
| 整備ツール・備品の手配 | 修理工具、予備部品、保管棚など | 中 | 未着手 |
| 作業工程マニュアルの作成 | 用具点検・再整備・記録方法の標準化 | 中 | 未着手 |

# カンボジア輸送と現地拠点形成

海上輸送

■ 輸送スキーム

・ParaNori（日本）→ カンボジア法人ParaNori（現地）へ海上輸送

・輸送費用の見積取得・現地フォワーダー選定中、免税申請を予定

■現地での連携

・パラリンピック委員会／赤十字団体／競技団体等との連携強化

・現地での新品購入拠点整備・販売体制構築も視野に法人設立

カンボジア拠点
（現地法人）

※以下の項目は、現在ParaNoriが取り組んでいる現時点での検討・準備項目です。
皆様のご支援・ご協力をいただけますと幸いです。

| 項目 | 内容 | 優先度 | ステータス |
|---|---|---|---|
| 輸送先・現地受取の体制整備 | 自社拠点、もしくは輸入代行協力団体 | 中 | 情報収集中 |
| 現地雇用創出の内容検討 | メンテナンス・常用車いす部品製造等、雇用機会の創出企画 | 中 | 未着手 |
| 技術者派遣の制度活用 | JICA等を活用した専門人材の短期／中期派遣 | 低 | 未着手 |
| 新品物品のラインナップ整備 | パラアスリート協力による提供品の拡充 | 低 | 未着手 |
| 現地イベント連携 | スポンサー候補のリストアップ／企画の準備 | 低 | 未着手 |
| 現地雇用の手法と企画 | 採用、定着に関するスキーム構築 | 低 | 未着手 |

# 強化指定選手と国内大会の実態

**【競技内容・参加者数】**

・100m、200m、走幅跳、砲丸投げなどを実施

・参加者約25名

**【報酬・賞金制度】**

・ASEAN・アジア大会で金メダル：約150～300万円の賞金

・国内大会成績に応じた賞金：1位 15,000円、2位 12,000円、3位 7,500円

・補足：国内平均年収24万円

・強化指定を受けると、月給支給の対象に

**【競技環境・支援体制】**

・2023年SEA Gamesを契機に、オリンピックスタジアムが設立

・政府支援により、4名のアスリートが来日・OX製車いす（1台120万円）を購入

・車いす陸上選手は国内で4名のみ／最初の1台は2006年豪州からの譲渡

**【選手育成体制】**

・全国から選手を集め、パラリンピックセンター寄宿舎（最大120名）で合宿実施

# パラスポーツ用具・用品の状態、種類、流通状況

**【用具・用品の現状】**

■一部トップ選手のみが高品質用具・用品にアクセス可能

・海外調達：タイ、イギリス、カナダ、日本から直接入手

・物資購入には、政府支援や大会賞金が資金源

・国内では競技用の消耗品（グローブや松やに）は入手不可

■それ以外の選手は…

・老朽化した中古用具・用品の使用が多く、メンテナンス環境が不十分

・国内には常用車いす製造メーカー2社あるが、競技用は未対応

**【競技別の拠点】**

・陸上・水泳：オリンピックスタジアム（プノンペン）

・卓球・パワーリフティング・ボッチャ等：パラリンピックセンター（写真右）

・車いすバスケ：バッタンバン、コンポンスプー

**【支援体制】**

・パラスポーツへの理解は一部にあり
（教育青年スポーツ相 × 委員会会長との関係）

# 中古品車いすのニーズ、今後の期待など

**【中古品のニーズと可能性】**

・一部トップ選手以外への支援は行き届いておらず、二極化が進行

・日本の中古品への関心は非常に高く、パラリンピック委員会、車いすバスケットボール連盟、CHAなど、複数団体が強い興味を示した

■中古品が生み出す価値

・質の高い日本からの寄贈→モチベーション向上／消耗品購入のきっかけに

・トップ選手向けだけでなく、草の根層（障がい児者）の初挑戦を支える仕組みへ

・競技用車いすの国内ストックは無く、ニーズは顕著

■ 現地団体の声（CHA代表：障がい者就労支援施設：写真右）

・CHAの卒業生が地元に戻った際、スポーツに触れられる場所がない

・JICAプログラムの「飛んでけ！車いす」での支援を受けた経験があり、
常用車いすの寄贈・整備には一定の知見あり

# その他訪問・ヒアリング先

■ ICRC（赤十字）

・2012年から車いすバスケの支援を継続中（PRP事業）

・バッタンバン／コンポンスプーに寄宿舎あり、プレイヤー52名

・車いすはMotivation社（ottobock）製の新品を寄贈（香港・タイ・NGO経由）

・購入はICRCポリシー上不可だが、ワークショップ等の連携には前向き

・CWBF（車いすバスケ連盟）は中古品でも良質なものなら購入検討に前向き（予算あり）

■ JICA

・パラリンピックセンターに日本から理学療法士を長期派遣予定（2024年4月～）

■ SHIKI.Co（障がい者就労支援）

・日本人×カンボジア人で共同運営

・食品加工や生活支援を提供し、プノンペン自立生活センターも併設

# 調達物品の想定ラインナップ

陸上用車いす

バスケ用車いす

テニス用車いす

バドミントン用車いす

ラグビー用車いす

陸上競技用ローラー台

片足スパイク

常用車いす

クラッチ

ボッチャ

# カンボジアの歴史と影響

**内戦の経緯**

・1975～1991年にかけて内戦が続く

・1975～1979年のクメール・ルージュ政権下で約200万人が犠牲に（国民の1/4）

・知識層・富裕層の迫害により、インフラ・工業・行政機能は崩壊

**被害の規模**

・埋設地雷数：推定400～600万発（1970～90年代）

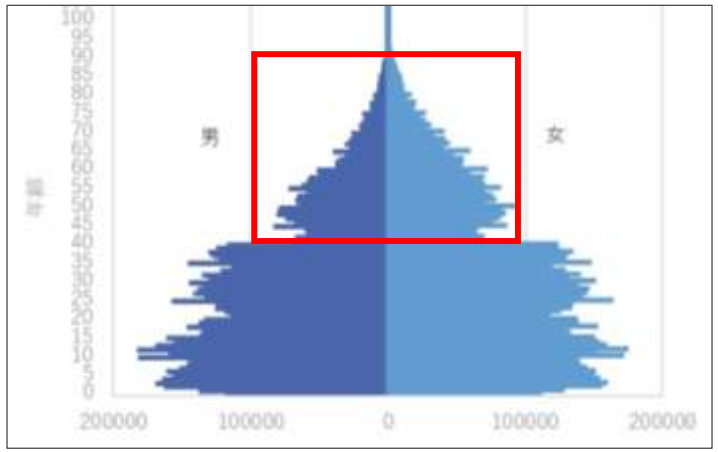
・被害者数（1979～2023年）：死者19,822人／負傷者45,215人（うち四肢切断9,088人）

・2022～23年にも死者14人・負傷者59人の被害あり

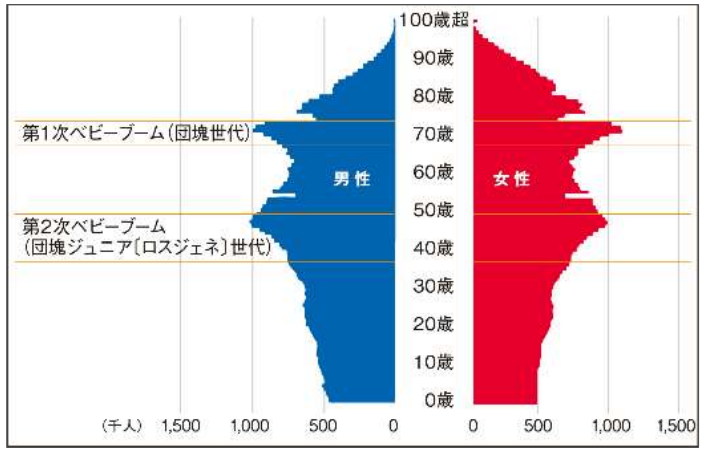
**負傷者・障がい者支援の現状**

・ICRCによるリハビリ支援、国内11か所のリハビリセンターが存在

・しかしスポーツ参加機会は限られ、社会的な認知や仕組みは整っていない




図：カンボジアの人口ピラミッド（2019年）




図：日本の人口ピラミッド（2019年）